

第1回 西胆振地域づくりビジョン懇談会

日 時：平成20年8月6日（水）

14：00～

場 所：西いぶり広域連合 会議室A

次 第

1 開 会

2 挨拶 西いぶり広域連合事務局長

3 議 事

- (1) 地域づくりビジョンの潮流について（座長）
- (2) 広域連携による地域づくりについて（各メンバー）
- (3) 意見交換
- (4) その他

4 閉 会

西胆振地域づくりビジョン策定について

平成 20 年 8 月
西いぶり広域連合

1. 実施方針

この度策定する「西胆振地域づくりビジョン」は、西胆振圏域 6 市町（室蘭市、登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町）の将来の発展に繋がるまちづくりのあり方として、「西胆振は一つ」のもと、6 つのまちが一緒になった場合に各市町の特性を活かし、どんなまちづくりが可能であるかなど、住民が地域の将来について考えることが（イメージ）できるビジョンとします。そのためは、以下の点が重要であると考えます。

① 地域でのこれまでの広域連携活動を踏まえる

「地域連携フォーラム（2 回）」、「西胆振圏の将来を考える研究会報告書」、「第 5 次西胆振広域市町村圏計画」、「広域連携推進のための住民意向調査の結果」等を踏まえ、これまでの議論を土台としてビジョンづくりを進めます。

【主な意見・ポイント】 資料 HP <http://www.city.muroran.lg.jp/main/org2200/kouiki.html>

- 西胆振地域連携フォーラム（第 1 回：平成 18 年 11 月、第 2 回：平成 19 年 11 月）
→ 西胆振が一つとなり、どのような地域を目指すのか？住民生活はどう変わるのか？など
- 西胆振圏の将来を考える研究会報告書（平成 20 年 3 月）
→ 合併 メリット例：住民の利便性向上 デメリット例：情報の共有化が困難 など
- 第 5 次西胆振広域市町村計画（平成 20 年 4 月）
→ 活力ある自立都市圏～住みたく、訪れたい西胆振を目指す
- 広域連携推進のための住民意向調査（平成 19 年 10 月）
→ 地域づくりには住民同士のまちづくり意見交換会が必要 など

② 6 市町の強みを活かし、地域全体が発展する視点を踏まえる

- 広域連携や合併を考える際、往々にして、人口減少、少子・高齢化、財政の逼迫といった行政側の見方や、特定地域（自分のまち）の見方に偏った意見が出てきます。しかし、そのような見方だけでは、地域全体の発展は望めません。そこで、6 市町それぞれの強みを活かしながら、連携して地域全体が発展するビジョンを作成します。

【地域の外からみた 6 市町の強みの例】

- 室 蘭 市 → 鉄鋼・石油精製などの工業、室蘭工業大学などの研究拠点
- 登 別 市 → 日本人・アジアからも注目の観光地・登別温泉、室蘭市とともに工業の集積
- 伊 達 市 → だて野菜に象徴される農業、ホタテ養殖などの水産、北湯沢温泉などの観光、本州からの移住定住
- 豊 浦 町 → ホタテ養殖漁業発祥の水産、養豚・豊浦いちごなどの農業
- 壮 瞥 町 → 洞爺湖・有珠山・昭和新山などの観光、高級菜豆・果物などの農業
- 洞爺湖町 → 洞爺湖温泉などの観光、野菜・畜産などの農業、ホタテなどの水産、北海道洞爺湖サミットによる知名度アップ

③札幌圏域をはじめ他圏域とは異なる独自性を持つ

- 6市町の地域の強みを加味し、地域の環境・資源・人材等を十分に把握して、札幌圏をはじめ他地域とは異なる西胆振地域らしい地域づくりビジョンを考えます。
- 地域内だけではなく、地域外からの視点、広域的な視点も充分に取り入れ、産業連携・新産業創出（1次産業と工業の連携など）、広域観光の促進（地産地消型の観光など）、労働・雇用の場の創出、地域（各まち）が受け持つ役割などを重点的に検討します。

【地域の外からみた西胆振地域の強みの例】

- 自然環境・・・洞爺湖、有珠山、昭和新山、太平洋、噴火湾 など
- 工業・・・鉄鋼・石油精製などの工業、P C B廃棄物処理事業などの静脈産業 など
- 農業・・・野菜・畜産・果物 など
- 水産業・・・ホタテ、サケ・マスふ化 など
- 観光・・・登別温泉、洞爺湖温泉、北湯沢温泉 など
- 知名度・・・北海道洞爺湖サミットの開催により、地域を日本・世界にアピール

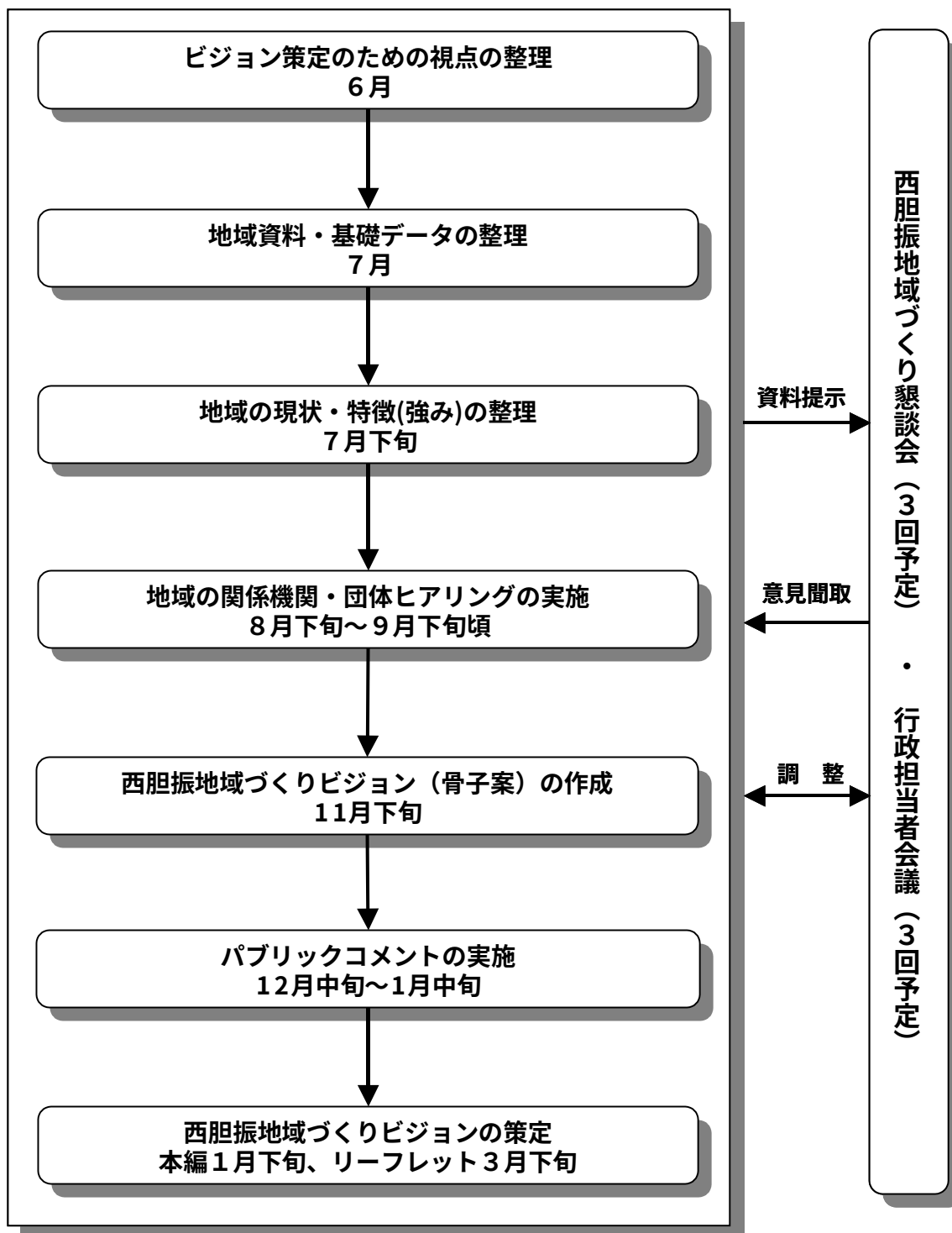
④地域住民の意見を反映させた、わかりやすいビジョンとする

- 地域づくりビジョンは、懇談会、6市町の関係機関・団体へのヒアリング調査などをもとに骨子案を作成し、骨子案ができた段階で各市町の広報による配布やインターネットなどを通じてパブリックコメントを実施し、地域住民の意見をより多く反映させたものとしします。
- 懇談会では、抽象的な議論に終始することなく、具体的なアイデアを多く提出し、検討過程でそれを絞り込む進め方とします。
- 地域ビジョンは、住民にわかりやすい言葉づかいや表現につとめます。また、住民説明のための概要版（リーフレット）は、写真や絵なども使用して地域の将来をイメージできる資料とします。

2. 西胆振地域づくりビジョンの策定フロートと視点

(1) ビジョンの策定フロー

西胆振地域づくりビジョンの策定フローを以下に示します。



(2) ビジョン策定のための視点

①「地域のイメージアップと総合的な活力の強化」を検討するための視点

海・山・川の豊かな自然と工業、農業、水産業などの多様な産業、港湾と温泉観光地を活用した魅力ある都市を形成するためには・・・



【検討のための視点】

- 西胆振地域はどのようなイメージ・魅力があるのか？
 - ・ 自然、温泉（洞爺湖・登別・北湯沢）、工業地域、農業、水産業、温暖・・・
- 地域のイメージ・魅力を上手く活用できているか？
 - ・ 地域のイメージ・魅力により生まれているメリットとは・・・
- イメージアップと総合的な活力を高めていくためには？
 - ・ 商品のブランド力の向上、地産地消の推進、地域が連携した情報発信・・・

②「広域的なまちづくりの推進」を検討するための視点

道路や公共施設の整備など、効率的・効果的なまちづくりを実施するためには・・・



【検討のための視点】

- 現在の広域連携の状況は？
 - ・ 防災、消防、救急医療、ごみ処理、事務処理、河川・道路管理、公共施設・・・
- 地域住民の生活行動は？
 - ・ 住民の医療、スポーツ・レクリエーション・文化施設などの利用状況・・・
- 住民生活を考慮した効率的・効果的な社会資本整備
 - ・ この道路を整備すると住民生活は向上、ニーズの少ないこの施設は統廃合・・・

③「産業連携、新産業創出の推進」を検討するための視点 ※重点項目

農業・漁業から鉄鋼業、サービス業の多様な（第1次産業～第3次産業）業種の連携から新たな産業、新たな事業を創出するためには・・・



【検討のための視点】

- 西胆振地域における異業種・産学官の連携の取り組み状況は？
 - ・ 宿泊業と農林水産業の連携、室蘭工業大学との連携の取り組み・・・
- 異業種・産学官の連携による新産業・新事業の創出の可能性は？
 - ・ 農業と鉄鋼業の連携、農林水産業バイオマスのリサイクルシステム・・・
- 異業種・産学官の連携に必要なことは何か？
 - ・ 情報交換のしかけづくり、技術力の向上・・・

④「広域観光の促進」を検討するための視点 ※重点項目

一過性の観光から圏域の周遊型観光へ、農業・漁業、ものづくりの体験型観光へ、地域に多数散在する資源（遺産、遺跡、火山等）を活かした広域観光の促進を図るためには・・・



【検討のための視点】

- 西胆振地域へ来る観光客の動態・目的は？
 - ・ 動態は本州→札幌→西胆振、主な目的は自然と温泉、移動手段はレンタカー・・・
- 連携して観光客に提供できる新しいサービスは何か？
 - ・ 地域の特徴を活かした農業・水産・鉄細工体験メニュー・・・
- 域内消費の向上を考慮した地域連携の仕組みづくりに必要なこととは何か？
 - ・ 農協・漁協・サービス業・製造業の連携、効果的なPR・情報発信の方法・・・

⑤「移住定住の推進」を検討するための視点

海・山・川の豊かな自然と温泉観光地をもつ西胆振全域を移住者に向け魅力あるフィールドとしてPRし、移住定住を推進するためには・・・



【検討のための視点】

- 移住者からみた西胆振の魅力は何か？
 - ・ 魅力的な自然が多い、良質な温泉が近い、温暖、交通の便が良い・・・
- 移住してきたの不安・問題は何か？
 - ・ 緊急時の医療への不安、買い物が不便・・・
- 西胆振の潜在的な魅力の発信と移住者の不安・問題への対応
 - ・ 地域の強みを連携させたPR、地域が連携して移住者の不安・問題に対応・・・

⑥「労働・雇用の場の創出」を検討するための視点 ※重点項目

魅力ある都市づくりによる地域のイメージアップから、企業の進出・誘致が可能となることや、若者の流出から定着へ



【検討のための視点】

- 西胆振地域への企業進出のメリットは何か？
 - ・ メリット：雇用労働の確保が容易、道路・港湾が整備され、空港に近い
- 西胆振地域のイメージや企業集積を活用している新しい進出企業とは？
 - ・ 農林水産物を活用した食品企業、環境・リサイクル関連企業・・・
- 西胆振地域への企業進出・誘致に必要なこととは何か？
 - ・ 西胆振地域の魅力とイメージを活かしたPR・誘致活動・・・

⑦「安心・安全のまちづくりの推進」を検討するための視点

火山（有珠山、クッタラ火山）災害や自然災害に強い地域づくりを推進するためには・・・



【検討のための視点】

- 火山災害、自然災害が発生した際の対応は？
 - ・ 有珠山噴火の際、国・道・市町・住民・NPO・ボランティアの連携・・・
- これまでの対応を踏まえ、より良い対応方法は？
 - ・ 災害発生の際、食事・寝具などの確保における住民の協力体制・・・
- 住民の協力を得るためには？
 - ・ 災害時の行動・対応方法を周知・・・

⑧「地域（各まち）が受け持つ役割」を検討するための視点 ※重点項目

衣・食・住・遊、土地利用を含めたゾーニング（などの可能性）のためには・・・



【検討のための視点】

- 各まちの強みとは何か？
 - ・ AとBまちの農業、BとCまちの工業、CとDまちの温泉、・・・
- 各地域の強みを活かした取り組みの可能性は？
 - ・ AとBまちの農産物を一緒にブランド名を付けて広域連として販売・・・
- ゾーニングのための課題とは何か？
 - ・ 情報基盤の整備、物流拠点の配置、マーケティングの一体化・・・

⑨「行財政の効率化」を検討するための視点

- ・ 広域化による組織の見直しにより生み出される経費や人員によって行政サービスの充実
- ・ 広域化からスポーツ施設や文化施設など公共施設の効率的な配置のためには・・・



【検討のための視点】

- 広域化することによる行政コストはどうなるのか？
 - ・ 歳出が○割削減・・・
- 広域化することによるメリットは？
 - ・ 職員の効率的な配置、公共施設の効率的な配置による維持管理費の低減・・・
- 広域化にあたり住民生活に配慮すべきことは何か？
 - ・ 子どもの通学、高齢者福祉サービスへの配慮・・・

西胆振地域づくりビジョン懇談会運営要領（案）

（名称）

第 1 条 本懇談会の名称は、西胆振地域づくりビジョン懇談会（以下「懇談会」という。）とする。

（目的）

第 2 条 懇談会は、室蘭市、登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町及び洞爺湖町(以下「西胆振圏域 6 市町」という。)の将来の発展に繋がるまちづくりのあり方について、「西胆振はひとつ」として、西胆振圏域 6 市町の各市町の特性を活かし、どんなまちづくりが可能であるかなど、住民が地域の将来について考えることができるイメージできるビジョンを策定するために開催する。

（構成）

第 3 条 懇談会の構成員は、別表のとおりとする。

（運営）

第 4 条 懇談会の会議運営は、座長が行う。

（設置期間）

第 5 条 懇談会の設置期間は、西胆振地域づくりビジョン策定完了までとする。

（事務局）

第 6 条 懇談会の事務局は、西いぶり広域連合に置く。

（その他）

第 7 条 この要領に定めるもののほか懇談会の運営に関して必要な事項は、懇談会に諮って定める。

附 則

この要領は、平成 20 年 8 月 6 日から施行する。

別表

西胆振地域づくりビジョン懇談会構成員

(敬称略)

氏名	市町村名	所属・役職
永松 俊雄	座長	室蘭工業大学教授
平 武彦	室蘭市	室蘭ルネッサンス理事長
沼田 勇也	室蘭市	室蘭まちづくり放送株式会社代表取締役社長
田中 寛志	登別市	登別市市民自治推進委員会会長
川島 芳治	登別市	登別市市民自治推進委員会部会長
和田 勉	伊達市	伊達市連合自治会協議会会長
鈴木 敏則	伊達市	社団法人伊達青年会議所理事長
長谷川 幹雄	豊浦町	いぶり噴火湾漁業協同組合豊浦支所長
高岡 正義	豊浦町	NPO豊浦観光ネットワーク理事長
千田 重光	壮瞥町	壮瞥町連合自治会副会長
松永 美継	壮瞥町	壮瞥町教育委員
塚本政寛	洞爺湖町	洞爺食品有限会社社長
桑原 敏	洞爺湖町	洞爺地区自治会連合会副会長

(オブザーバー)

- ・北海道胆振支庁
- ・室蘭市、登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町
- ・社団法人 北海道未来総合研究所

(事務局)

- ・西いぶり広域連合